

## 資料1 江戸川区がめざす「日本一」

江戸川区では、持続可能な地域づくりを進めるため、SDGs(持続可能な開発目標)の理念を踏まえ、特に積極的に取り組むべき最大の環境問題ともいえる地球温暖化への対策を中心に捉えた「エコタウン」の構築をめざします。

江戸川区がめざす「エコタウン」は、将来にわたり持続可能な地域をSDGsのアジェンダ(行動計画)にある「誰一人取り残さない」社会として、すべての関係者の参加による実現をめざします。

そこで、江戸川区ではめざすべき「日本一」のエコタウンを、すべての主体の「参加」、実質的な温室効果ガス排出量の「削減」、持続可能なエネルギーへの「転換」の視点からめざすこととしました。

江戸川区がめざす「日本一」は、この考えに基づいて掲げたものです。

参加	<b>区民のもったいない運動への参加率</b> もったいない運動は、江戸川区のエコタウン実現のための中心的な取組です。すべての区民が地球温暖化問題に関心を持ち、温室効果ガスの削減に取り組む基盤となるこの運動に参加することをめざします。	2016年度実績： 17.1% (118,547/691,521人) 人口は2017年3月時点の住民基本台帳
	<b>事業者のエコカンパニーえどがわへの参加率</b> もったいない運動の事業者向けの取組であり、すべての事業者が地球温暖化問題に関心を持ち、温室効果ガスの削減に取り組む基盤となるこの運動に参加することをめざします。	2016年度実績： 1.6% (355/21,840事業所) 総事業所数は2014年度の調査
削減	<b>家庭の温室効果ガス排出量</b> わが国の温室効果ガス排出量の削減には、家庭からの排出量の大幅な削減が必要となっています。全国を取組をけん引する意気込みで、家庭からの排出量削減日本一に取り組みます。	2014年度実績： 900千t-CO <sub>2</sub>
	<b>オフィスなどの業務による温室効果ガス排出量</b> 製造業や運輸事業者など様々な業態のある事業者が共通で取り組める温暖化対策は、オフィスなどで実践できる照明対策など業務部門の取組です。そのため、区内すべての事業者の積極的な参加と実践により、業務部門からの排出量削減日本一に取り組みます。	2014年度実績： 516千t-CO <sub>2</sub>
	<b>家庭・事業者によるごみの排出量</b> ごみを減らすこと、リサイクルやリユースを進めることは、区民や事業者にとって一番身近で、実感しやすいエコタウンを実現するための活動です。そのため、ごみを減らす取組を区全体で推進します。	2016年度実績： 167,252t
転換	<b>小中学校での教育・取組</b> 地球温暖化対策の取組を進めるためには、何が問題で、問題を解決するために何をしなければならぬかを理解する必要があります。地球温暖化問題に対する質の高い教育を行うことで、すべての児童・生徒が地球温暖化問題に関心をもって取り組むことをめざします。	
	<b>事業者のエコカー導入率</b> ガソリンや軽油などの化石燃料を使う自動車から、電気自動車や燃料電池自動車などのエコカーに転換することで、温室効果ガスの排出を大幅に削減できるとともに、燃料源として再生可能エネルギーをより使いやすくなります。そのため、エコカーの導入率日本一に取り組みます。	
	<b>再生可能エネルギーの導入率</b> 太陽光発電などの再生可能エネルギーは、温室効果ガスの排出量を削減するだけでなく、エネルギーの地産地消や化石資源の利用抑制にもつながります。区内への再生可能エネルギーの導入だけでなく、使用する電源のすべてを再生可能エネルギーとするなど、大胆なエネルギー転換をめざします。	2014年度実績： 10.2%